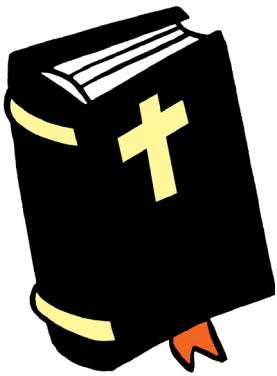




## しとぎょうでん 使徒行伝：ろうやのとびらと ばんにん 番人の ころこころ 心

(使徒行伝 第16章 9-40節)



ある時、パウロは幻を見ました。マケドニアに来て、人々にイエス様のことを教える  
ほしいと招かれる幻でした。そこで、パウロとシラスはマケドニアのピリピへ行きました。

そこで会ったルデヤという名前の女の人は、パウロが教えたことを信じ、まもなく  
彼女もその家族も、バプテスマを受けました。

ピリピには、悪い霊にとりつかれたどれいの少女がいました。占いをして、主人に  
お金をもうけさせていたのです。その少女が、パウロとシラスについて来ては、二人を  
こまらせていました。そこでパウロは、その悪い霊に彼女から出て行くようにと、  
イエスの御名で命じました。すると少女の主人はおこって、パウロとシラスをつかまえ、  
役人に引き渡してろうやに入れさせてしまいました。

真夜中ごろ、パウロとシラスは、神様に祈ったり、賛美の歌を歌ったりしていました。  
ほかの囚人たちはそれに聞き入っていました。するととつ然、大地震が起こって、  
ろうやのとびらが全部開き、囚人たちがつながれていたくさりも全部、はずれて  
しまいました。ろうやの番人は、囚人たちがにげてしまったのではないかと、非常に  
おそろしくなりました。けれどもパウロは、だれもにげていないと言って、番人を  
安心させました。

ほっとした番人は、イエス様についてパウロが教えてくれることに耳をかたむけました。  
そして、番人もその家族も、イエス様を信じたのです。

次の日、パウロとシラスは、ろうやから出されたのでした。



## しとぎょうでん 使徒行伝 : ろうやのとびらと ばんにん 番人の ころこ 心

(使徒行伝 第16章 9-40節)



あるとき、パウロは幻を見ました。マケドニアに来て、人々にイエス様のことを教える  
ほしいと招かれる幻でした。そこで、パウロとシラスはマケドニアのピリピへ行きました。

そこで会ったルデヤという名前の女の人は、パウロが教えたことを信じ、まもなく  
彼女もその家族も、バプテスマを受けました。

ピリピには、悪い霊にとりつかれたどれいの少女がいました。占いをして、主人に  
お金をもうけさせていたのです。その少女が、パウロとシラスについて来ては、二人を  
こまらせていました。そこでパウロは、その悪い霊に彼女から出て行くようと、  
イエスの御名で命じました。すると少女の主人はおこって、パウロとシラスをつかまえ、  
役人に引き渡してろうやに入れさせてしまいました。

真夜中ごろ、パウロとシラスは、神様に祈ったり、賛美の歌を歌ったりしていました。  
ほかの囚人たちはそれに聞き入っていました。するととつ然、大地震が起こって、  
ろうやのとびらが全部開き、囚人たちがつながれていたくさりも全部、はずれて  
しまいました。ろうやの番人は、囚人たちがにげてしまったのではないかと、非常に  
おそろしくなりました。けれどもパウロは、だれもにげていないと言って、番人を  
安心させました。

ほっとした番人は、イエス様についてパウロが教えてくれることに耳をかたむけました。  
そして、番人もその家族も、イエス様を信じたのです。

次の日、パウロとシラスは、ろうやから出されたのでした。